

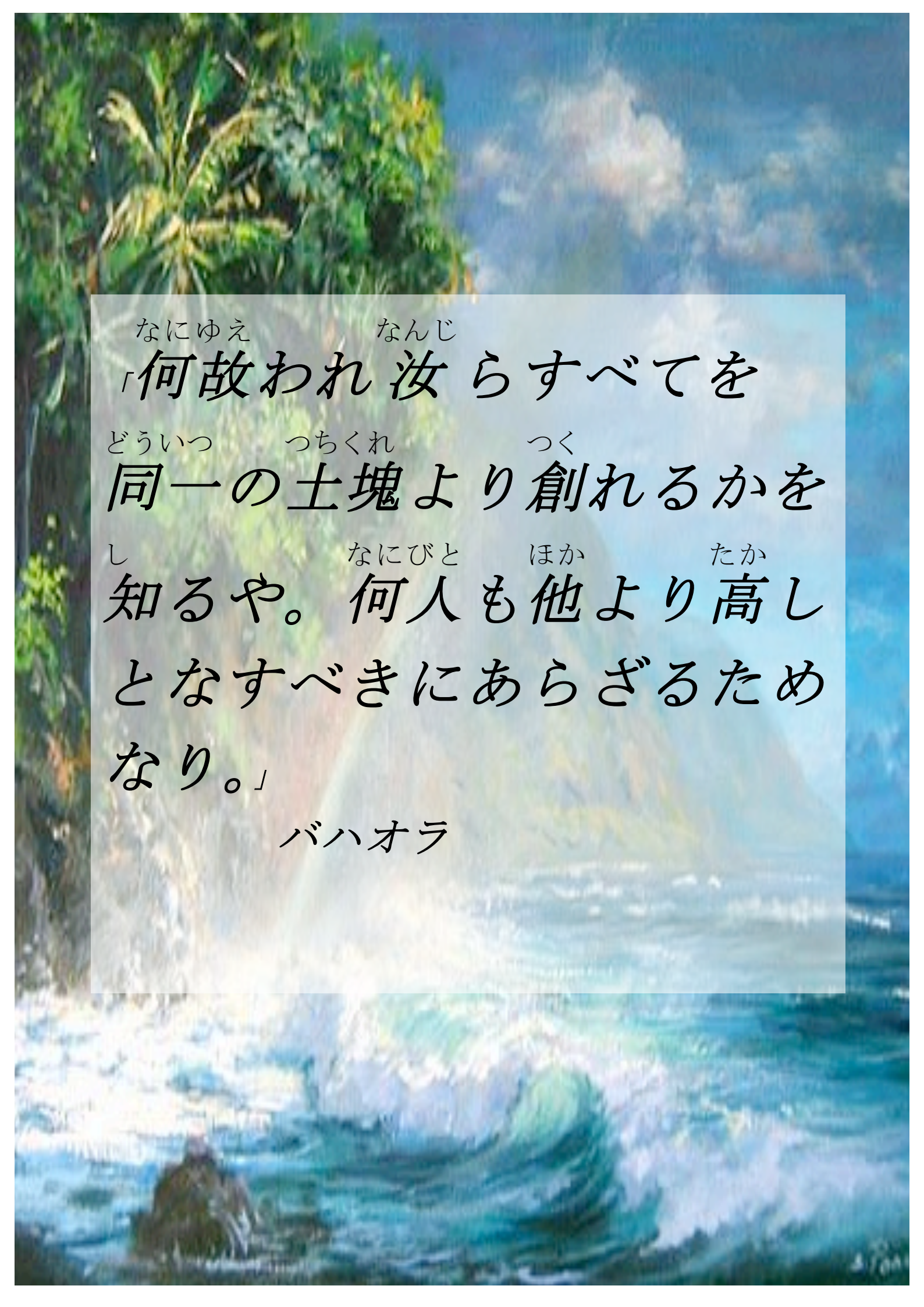


ひるの星

No. 256

もくじ

パハオラの言葉.....	2
無欲.....	3
クイズ.....	7
喜怒哀楽人形.....	8
ぬり絵.....	9
みんなの写真.....	10
保護者のページ.....	11



なにゆえ なんじ
「何故われ汝らすべてを
どういつ つちくれ つく
同一の土塊より創れるかを
し なにびと ほか たか
知るや。何人も他より高し
となすべきにあらざるため
なり。」

バハオラ



むよく 無欲

子供たちが寝る前のお祈りを終えたところで、お母さんがアブドル・バハのお話をしました。奥さんがアブドル・バハのために用意した高価なコートをアブドル・バハはもっと安い五つのコートに変えて、一つは御自分に、四つは他の人にあげてしまったというお話でした。お母さんが言いました。

「アブドル・バハは欲がない方で、これがそのお手本よ。私たちも見習わなくてはね。」するとシャラが跳び上がって言いました。

「だったら私、その価値がない子になるようにがんばってみるわ！」リアズが笑って言いました。

「そうだよな、シャラは価値がない子になるのは本当に得意だもんな！」アスマとモナも笑ってしまいました。お母さんがそれをたしなめるように、こわい顔をして首を横に振って言いました。

「リアズ、意地悪しないで、欲がないのと価値がないことの違いをシャラにちゃんと教えてあげて。」リアズはため息をついて説明を始めました。

「シャラ、欲がないというのは、自分よりも他の人の役に立つことであって、価値がないのは、何の値打もない、誰の役にも立たないことなんだよ。」

「すばらしい、リアズ！」とお母さんがほめて続けました。

「本当に、あんたには驚かされるわね。誰も価値がない人っていないのよ。私たちが誰でも計算できないほどの価値ある宝石があるのよ。その宝石とは、他の人に奉仕できるという価値ある、良い性質なのよ。バハオラが言われているの。『人間を計り知れないほど高価な宝石に富む鉱山と見なせ。教育のみがその宝を放出させ、人類にその利益を享受させることができる。』私たちが持っている、その宝石には、どんなものがあるかしら？」

「愛！」「許し！」「慈悲！」「思いやり！」「親切！」と子供たちが一斉に叫びました。

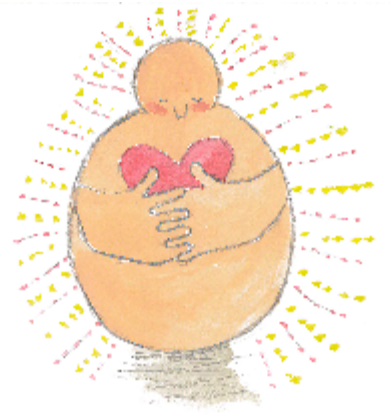
「そう、その通り！」とお母さんが答えて、「誰でも、どんなに不親切そうに見えても、人類に奉仕するための宝石や宝を必ず持っているの。さて、ここで欲がない、無欲について考えてみましょう。...地球はその地下に素晴らしい宝石や宝があるわね。...たとえばどんなものがあるかしら？」

「ダイヤモンド！」「ルビー！」「金！」「銀！」と子供たちが答えました。

「そう、その通り！」とお母さんが答えて続けました。

「それだけではなくて、私たちの食べ物、動物の食べ物、飲み水など、あらゆる宝があります。地球は大変な価値





があります。でも、いばっていません。謙虚です。...私たちに毎日その宝の上を歩かせています。そして私たちにその宝を限りなく与え続けてくれています。それでも、いばっていません。謙虚で無欲です。無欲であることの、もう一つの意味を医者为例にして考えてみましょう。その医者がみんなを手術することになってメスで切ろうとしているとします。そのとき、その医者がその手術でいくらお金が手に入るかだけを考えているとしたら、あるいは、後で行きたいパーティのために手術を急いで終わらせようとしたら、または、疲れていて早く座って休みたいと考えていたら、どう思う？そんなことして欲しくないでしょ。ただ手術を成功させることだけを考えると欲しいでしょ。その医者には手術中は自分のことは全く忘れて無欲になって欲しいはずです。」子供たちはみんな納得してうなずきました。モナがこれまでのお話をまとめて言いました。

「というわけで、私たちみんな、とても価値があるのよね。でもその価値ある宝石を自分よりも他の人たちのために使うように、無欲にならなければいけないんだわ。それから私これまで、謙虚であること、つまり、いばらないことは、自分をバカで価値がないように見せることだと思っていたけど、それは間違いだったのね？」

「その通りよ、モナ。無欲であるのと価値がないことの違いを知ることは、とても大事なことなのよ。アブドル・バハはその一生をあらゆる人の僕となって、無欲のお手本を示されました。アブドル・バハというのは御自身が好んで付けられた名前前で神の栄光（バハオラ）の僕という意味です。御自分のことを次のように言われています。『私の名前はアブドル・バハです。私の資格はアブドル・バハです。私の本質はアブドル・バハです。私の誉はアブドル・バハです。祝福された完全への隷属は私の榮譽ある、きらめく冠です。そして全人類に対する隷属は私の永遠の信条です。....今までも、そしてこれからもアブドル・バハ以外のいかなる名称、称号、言及、賞賛を持つことは決してありません。これは私の憧れであり、最大の熱望です。これこそ私の永遠の命であり、永遠の栄光です。』

それではこれから無欲になることのお話をしてみましょう。」と言ってお母さんが始めました。

「昔あるところに、小さな男の子がいました。残念ながら、この男の子は大変なやんちゃ坊主でした。お父さんをけったり、お母さんを叩いたり、見知らぬ人にアッカンベーをしたり、お友達をつねっていじめたりしていました。でも、この男の子はいくら好き勝手しても、何かまだ不満のようでした。ある日、男の子のおばあちゃんが、訪ねてきました。このおばあちゃんはみんなから愛されていて、おばあちゃんも、みんなが大好きでした。特に小さな子供が大好きでした。

その日の午後、男の子が、周りの人たちにわがママを言って迷惑をかけているのを、おばあちゃんは悲しそうに見ていまし





た。とうとう、おばあちゃんはやさしい目で合図して、男の子を呼びました。そして、男の子をひざに座らせ、抱きしめて、こう言いました。

「あんたって、なんて可愛そうな子なのでしょう。今まで、こんなにもひどい扱いをされて。」男の子はこれを聞いて驚きました。だって今までやりたい放題してきたのに可愛そうだと言われたからです。さらに、ひどい扱いをされたと聞いたら、今まで以上にわがままできると思うと嬉しくなりました。男の子はおばあちゃんに向かってニコニコしました。おばあちゃんは男の子をまた抱きしめてこう言いました。「世の中のものには全て存在する理由があるんだよ。太陽があるのは生命と暖かさをもたらすため、植物があるのは、くだものと花をもたらすため、土は私たちに食べ物をもたらすため、私たち一人一人だってこの世の中で生きている、ちゃんとしたわけがあるんだよ。太陽は暖かさと光をもたらすことで喜び、花は美しさをもたらすことで喜び、木はくだものと実をもたらすことで喜び、私たちも創られた目的を果たす喜びがあるのよ。おまえが可愛そうだと思うわけは、誰もおまえが創られた理由をおまえに教えなかったからなの。」男の子はおばあちゃんの言葉が気になって目を大きく見開いてたずねました。「なぜ？おばあちゃん。なぜ僕は創られたの？」おばあちゃんは微笑んで答えました。「それは、おばあちゃんや今まで生きてきた他の人たちと同じ理由だよ。それはね、できるだけ多くの人を愛してお手伝いすること。これが私たちの運命であり、この世の中にいる一番の理由だよ。」おばあちゃんはやさしく微笑んで続けました。

「私たちが自分よりも他の人のことを考えて、その人の幸せが自分の幸せよりも大切だと思ったら、不思議なことが起きるの。胸の中で暖かい気持ちが湧きあがってきて、それが体中に広がるの。その気持ちが私たちの本当の喜びとなるのよ。人は他の人の上に立つために創られたのではなくて、奉仕をするために創られているのよ。王様や大統領だって、ひとびとのために奉仕するでしょ。山の上に降る雨を見てごらん、その雨は何処に行くの？みんなに生命を与える水となって、....それが下へ下へと下って川を流れて海にたどり着くでしょ。海は一番低いところにあるから、地球の水は全部海に流れていくでしょ。おまえも海のように誰よりも低くなりなさい。そうすると、みんなが自然におまえのところに来て、おまえを愛するのよ。山の頂上にとどまろうとすると、生命の水どころか雨の一滴のまま何の役にも立たないから、みんなおまえから逃げちゃうわよ。海のように誰よりも低くなって、みんなを助け、奉仕をしてごらん。それが無欲になること。この無欲という宝物を持つことで、おまえは世界で最も幸せで、愛される人になれるのよ。」

男の子はおばあちゃんのひざの上でしばらく座って考えていましたが、やがて黙って外に遊びに行きました。数分後、男の子が一番好きなおもちゃをいとこに貸しているのを見てお母さんは驚きました。



もちろん、男の子はすぐに天使になったわけではありません。けど、腹が立って、誰かをけったり、叩いたり、物を取り上げたりしようとしたときに、ふっと、おばあちゃんの言葉を思い出しました。『海のようにになりなさい。...海のようにになりなさい。』」

お話が終わって、お母さんが言いました。

「アブドル・バハは、まさにこの海のようにでした。私たちのお手本です。私たちみんなすごい価値があるけど、それを、いつでも、誰にでも、あげるように無欲になりましょうね？アブドル・バハのように！」

「はい！」子供たちみんなで元気よく返事をしました。

「私、本当に無欲になってみせるわ！」とシャラが叫んで、リアズに向かって舌を出しました。子供たちはみんな笑ってしまいました。

「それじゃ、みんなが無欲になるよう、がんばりましょう。」とお母さんが励ましました。それから、みんなにキスをしてまわって、明かりを消しました。



クイズ

- 1 お母さんが最初にした、アブドル・バハのお話は何でしたか？

- 2 シャラが間違えた二つの言葉は何ですか？

- 3 リアズが答えた、無欲はどういう意味ですか？

- 4 私たちにある計り知れない価値にはどんなものがありますか？

- 5 おばあさんが言った、男の子が可愛いそうな理由は何ですか？

- 6 私たちが創られた理由は何ですか？

- 7 山に降った雨は最後にどこに行きますか？

- 8 海のようにするには、どうしたらいいですか？

- 9 子供たちとお母さんは誰のようになりたいですか？

- 10 無欲になるには、どうしたらいいですか？

どうですか？全部答えられましたか？

答えは保護者のページのお話の後にあります。

ボーナス・クイズ

このお話で無欲という言葉は何回出てきますか？



喜怒哀楽人形

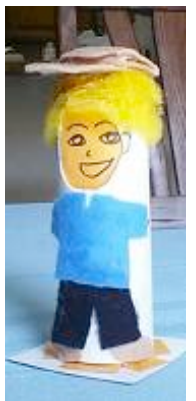
材料

- トイレットペーパーの芯
- 肌色の紙 (15 cm × 15 cm)
- 芯と筒の土台になる正方形の厚紙 (6 cm × 6 cm)
- カッター
- はさみ
- のり
- マーカー
- テープ
- 髪の毛にする毛糸少々
- 洋服にするフェルト

作り方

芯に、その1/3の長さの卵形(顔)の穴をカッターであける。
肌色の紙を丸めて芯の中に入れ、取り出して筒が開かないようにテープでとめる。
芯より、はみ出した筒の部分を6か所くらい、はさみで切り開いて、土台の厚紙ののり付けする。
芯に毛糸の髪とフェルトの洋服をのり付けて、手や足、耳などを描く。
頭の穴をふさぐのに髪の上にフェルトや紙の帽子をのり付けする。
筒を芯に入れて卵形の穴から、笑った顔、泣いた顔、怒った顔、驚いた顔など、四つの表情を描きこむ。

ヒント*顔、手、足などは最初に鉛筆がきをして、マーカーで描きこむとよい。

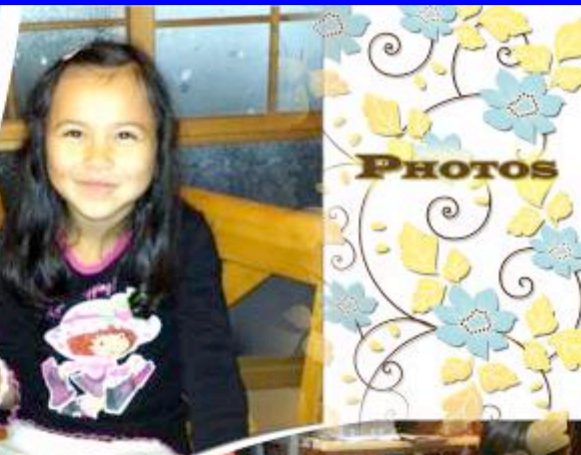


ぬり絵

点をAからZまでアルファベット順につなげて.....

どんな絵になるかな？.....絵を完成して色をぬりましょう。





保護者のページ

子供たちの身だしなみとか知性、または達成したことをほめるよりも、親切なところをほめるほうが、世の中はもっと変わるだろうと、あるユダヤ教の僧侶が言っています。しかしそれをもう一步進んで考えて、子供でも誰でも自分に無欲で行動しているときは、必ずほめるようにするほうが、もっと大きく世の中を変えるでしょう。親切でもいろいろな理由があります。たとえば、自分を知ってもらいたいから、自分が愛しているから、親切にして自分が何かを得ようとするからという場合があります。でも無欲は違います。無欲は自分よりも他の人に役に立つことだけを考えて、自分への見返りを期待していません。

自分の利益だけを考える私心は、動物の属性です。親切は人間の属性です。無欲は天使の属性です。この天使の属性を身に付けるようにして、この地上が天国の住みかとなるように、子供だけでなく道で出会う人すべてを励ましましょう。

「神に愛される人々は、自分たちが踏んでいる大地に、決して次のように言わせないように振る舞うべきである。「私はあなたたちより神に好まれる存在である。その証拠に、農夫が私に課す重荷を私は如何に忍耐強く耐えていることか。私は、神の恩恵をすべての存在に絶え間なく分け与える道具である。これは、すべての恩寵の源泉である神が私に託したのである。神が私に授けた名誉にもかかわらず、そして全創造物の需要を満たすほどの富、その私の富の数限りないほどの証拠にもかかわらず、私が如何に謙虚であるかを見よ。全くの従順さで人の足で踏ませる私の姿を見よ。……」

バハオラ



クイズの答え

1) アブドル・バハと五つのコート 2) 「欲がない」と「価値がない」 3) 自分より他の人の役に立つこと 4) 他の人に奉仕できる、計り知れない価値ある良い性質、「愛」、「許し」など 5) 誰も男の子に「生きている目的」を教えなかったから 6) 他の人に奉仕するため 7) 海 8) 誰よりも謙虚になること 9) アブドル・バハ 10) 価値ある良い性質をできるだけ多く使って、他の人の役に立てる。



皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ
いいお話、又は写真などがあれば、
luanahirahara@hotmail.com に送ってください。

ひるの星

№. 256

2013 12月発行

ひるの星をカラー印刷するには <http://hirunohoshi.weebly.com/>
のリンクにアクセスしてください。

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目2番13号

電話：03-3209-7521 FAX：03-3204-0773

ひるの星委員会：平原静志、平原ルアナ、バウデンカービー真己、グレン・ロウ

協力

物語：平原ルアナ、

和訳：平原静志

写真：グレン・ロウ、

絵：平原ルアナ、カーティス・ラリー、スティーヴ・パシヤル、平本かおり、サナ・マ
ジョブ

テクニカル・アドバイザー：グレン・ロウ

監修：平野祐一

